

現代人の五感に何かを訴えているような
想いがいたします。(第24回)

「冬来たりなば、春遠からず」

自然がもたらす四季折々の日々の変化にはある種のバランス感覚があります。日本の気候風土は自然に恵まれ、そこに住む人々の人情も自然のバランス感覚の上で培われてきました。日本の文化は、西欧人の人工的な造形美を取り入れた「石の文化」とは対称的に、「木の文化」とも言われており、自然美を大切にしております。琴や尺八は、剛のマタケと柔のキリが響かせる自然の音色です。本演奏会を通して自然を愛し、自然から何かを学ぶ心の糧になって戴ければ幸いです。(第25回)

自然の木竹が奏でる音色、
そこには民族のふる里があり、
豊かな心が育まれます。
味気ない物の豊かさには、
不景気風が吹き込むと、
真心までが荒れ果てていきます。
自然を敬い人の生を尊ぶ真心で
不景気風をそよ風にしたいものです。
本演奏会が、豊かな心を育む糧に
なれば幸いです。(第26回)

激動の世紀末のこの1年、春の政変、夏の干ばつ、秋の貨物船座礁等々、わが心を癒すことなく1994年の思い出を刻んで枯葉のごとく慌ただしく過ぎ去ろうとしています。

科学技術の目覚ましい進展の現代、これに反比例するかのように自然環境の破壊や異常気象も進展し、人情までも荒んでいく想いがいたします。せめて1年に1度、木と竹の奏でる民族音楽に接し、昔の無垢な心を少しでも取り戻したいものです。(第27回)

阪神大震災に始まる荒れ狂った平成7年、生徒のいじめ自殺やオウム真理教によるボア、円の乱高下と就職難、挙げ句の果ては核実験、この世は何かが狂っている。世紀末とは言え、もう少し何とかならないものか？世の中、科学技術の発展につれ住み易くなるどころか、未来はどうなるのか不安が募るばかり。これでは万人の心が荒んでしまう。

21世紀を迎える前に一度原点を見直してはどうか。戦後50年の歴史を振り返り、衣食住への感謝の気持を思い出してみよう。感謝の気持は自分の心を安定させ他人にも心地よい気分を与えてくれる。我が国の祭事は自然の恵みに対する感謝の気持を表すために自然発生的に生まれたものであり、万人の心のよりどころでもある。我が国の伝統音楽は、この祭事を盛り上げる媒体であり、感謝の気持を謳歌する安らぎを与えてくれる。琴と尺八が奏でる音楽には、自然を敬い相手を慕う思いやりの心を主題にしていることが多い。特に桐と竹の響きには自然の創り出す鎮静作用が

あり、不思議と人の心を和ませてくれるようだ。本演奏会を機に、和んだ心地の中で新しい歳の新たな一歩を踏み出されまようご祈念申し上げます。(第28回)

日本の文化は木の文化と言われています。これは西洋の石の文化に対比して言われるものです。琴や尺八の楽器は桐や真竹などの木製であり、木の文化の一翼を担っています。石の文化は西洋の教会や宮殿などの古い建築物に見られるように華奢な人工美を取り入れています。自然の木や竹が奏でる邦楽の魅力も四季折々の自然の情景や音色を大切にしているところにあるのではないのでしょうか。本演奏会が日本の木の文化をより大切にいくきっかけにでもなれば幸いです。(第29回)

琴や尺八は、奈良時代の正倉院に保存されているように、1,200年も前から根付いています。日本古来の文化は、国際的には益々評価されているにも拘わらず、若い人への伝承が途絶えつつあります。今や我が国のバブル経済も21世紀を目前にしての社会の膿が抽出されています。同様に、華やかなバブル文化は、ひとときの流行が過ぎ去ると一瞬にして消失していくものです。本演奏会をきっかけに、琴や尺八の楽器に興味を抱き、日本古来の伝統文化を21世紀に引き継ぐ志が芽生えることを願っております。(第30回)

－邦楽部定演の足跡－

昭6 三重高農邦楽部創設、開校記念演奏会。
〈曲目〉六段の調べ、千鳥の曲、岩上の松、松の緑、新高砂、八千代獅子、摘草。

昭7 開校記念演奏会。尺八8名。
〈曲目〉六段の調べ、千鳥の曲、岩上の松、松の緑、新高砂、越後獅子、茶の湯音頭、元禄花見踊、秋の夜、大内山、岸の柳、五郎。

昭8 開校記念演奏会。尺八9名。
〈曲目〉六段の調べ、千鳥の曲、越後獅子、元禄花見踊。

昭9 開校演奏会。照音会箏曲会。尺八11名。
〈曲目〉六段の調べ、千鳥の曲、秋の色種、松の緑、金剛石、夕顔、都鳥、老松。

昭10 開校演奏会。照音会箏曲会。尺八10名。
〈曲目〉六段の調べ、千鳥の曲、岩上の松、松の緑、越後獅子、末の契、吾妻八景。

昭11 開校記念演奏会・校内演奏会。
正保会箏曲会。
〈曲目〉六段の調べ、千鳥の曲、岩上の松、茶の湯音頭、夕顔、金剛石、末の契。